

中国景気概況(2022年6月)

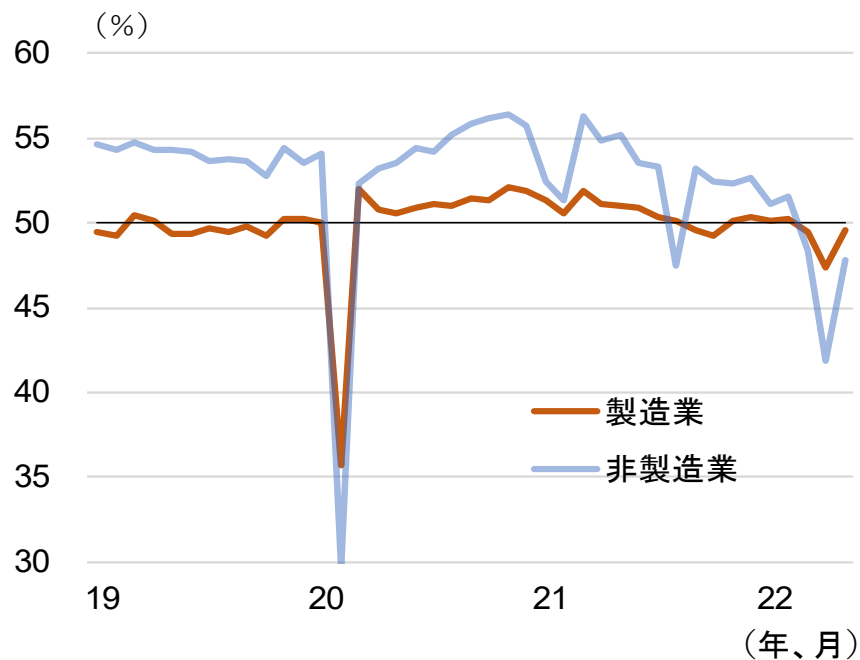
2022年6月2日

調査部 研究員 丸山 健太

景気は減速、PMIは上昇も低水準

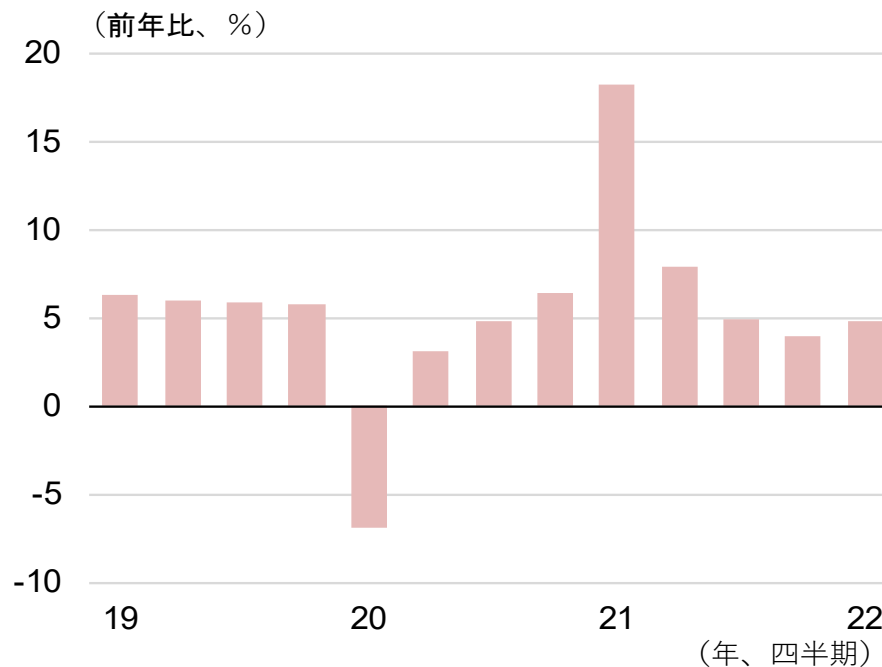
中国景気は、上海ロックダウンの影響により減速している。5月のPMIは、前月の大幅低下の反動もあり、製造業、非製造業ともに上昇したが、好不況の判断の目安となる50を3ヶ月連続で下回った。上海のロックダウンは6月でほぼ解除されたため、今後は持ち直しが期待される。なお、2022年第1四半期の実質GDP成長率は前年比+4.8%だった。季節調整済み前期比では+1.3%と前期(同+1.5%)と比べ減速した。

PMI



(出所) 国家統計局

実質GDP(四半期)



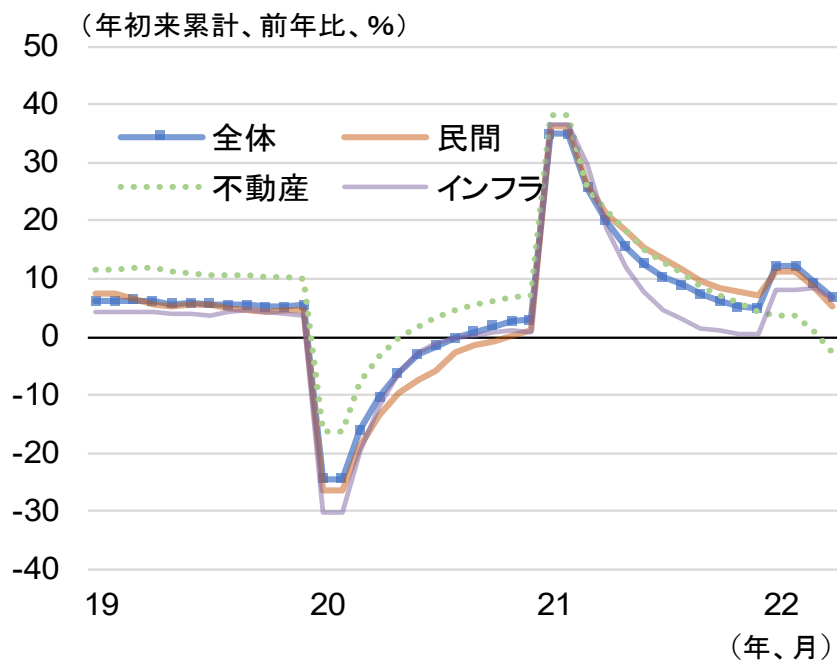
(出所) 国家統計局

固定資産投資は減速、生産は減少

4月の固定資産投資(年初来累計値)は、前年比+6.8%と増加幅が縮小した。政府が拡大方針を示したインフラ投資は同+6.5%と堅調を維持したが、規制強化とロックダウンで需要が縮小した不動産投資は同-2.7%と減少に転じた。

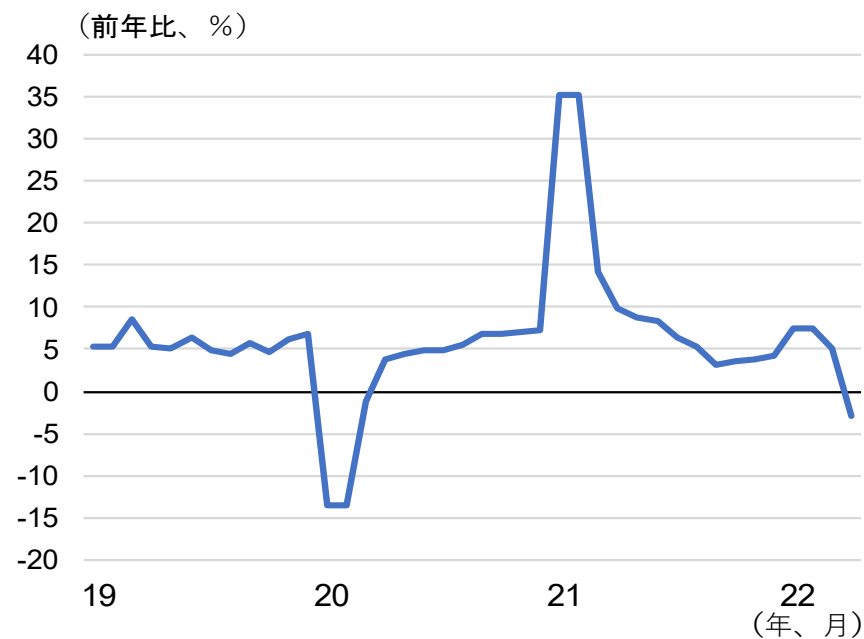
4月の工業生産は、前年比-2.9%と、約2年ぶりに前年割れとなった。上海ロックダウンの影響で、自動車(同-31.8%)や汎用機械(同-15.8%)が大きく減少した。資本形態別にみると、外資企業(同-16.1%)の落ち込みが特に大きかった。

固定資産投資



(出所) 国家統計局

工業生産



(出所) 国家統計局

消費は大幅減、物価は緩やかに上昇

4月の小売売上高(名目)は前年比-11.1%と大幅に減少した。上海でのロックダウンの影響から、飲食(前年比-22.7%)など対面型サービスや、金銀宝飾品(同-26.7%)や化粧品(同-22.3%)などぜいたく品の消費が落ち込んだ。また、自動車の販売も大きく減少した。5月の消費もロックダウンの影響で減少が続く見込みである。

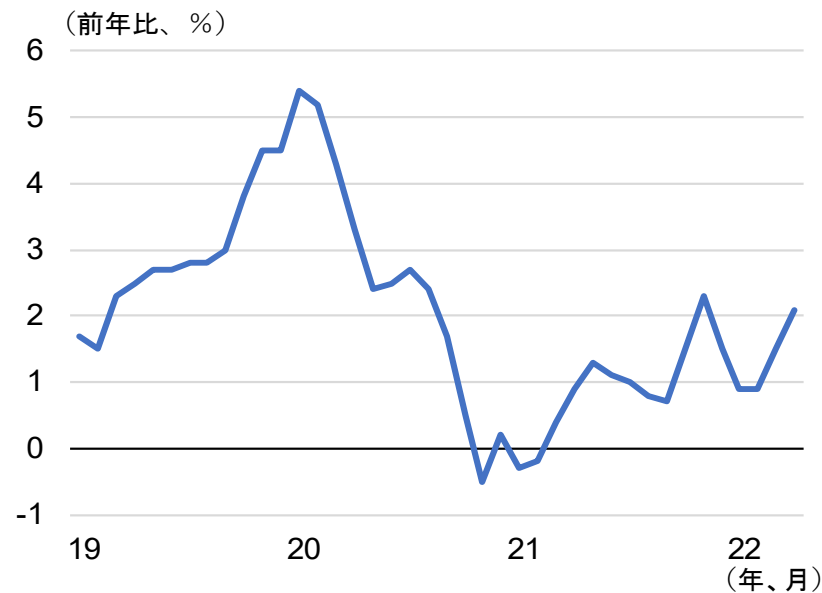
4月の消費者物価上昇率は前年比+2.1%と緩やかに上昇した。食品やエネルギーの価格が物価を押し上げた。

小売売上高(名目)



(出所) 国家統計局

消費者物価指数

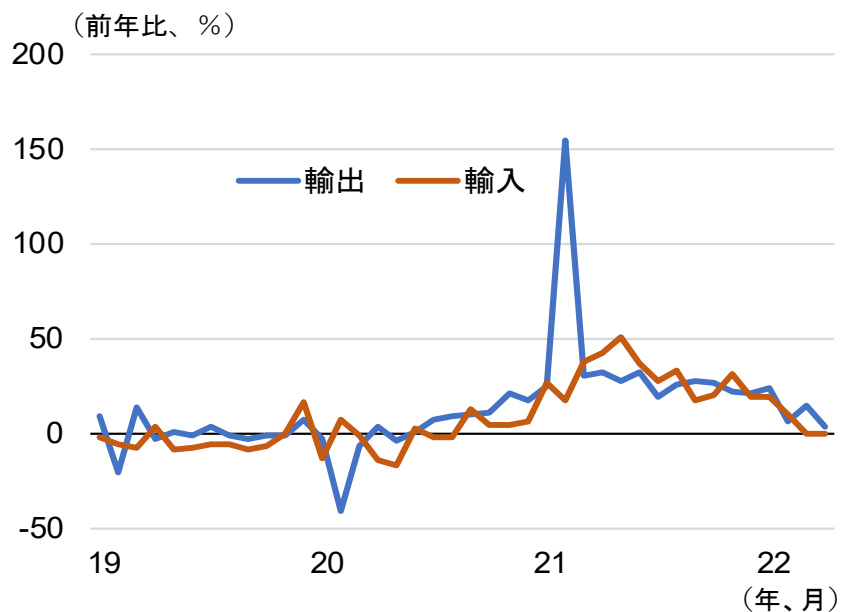


(出所) 国家統計局

輸出は増加幅縮小、輸入は横ばい

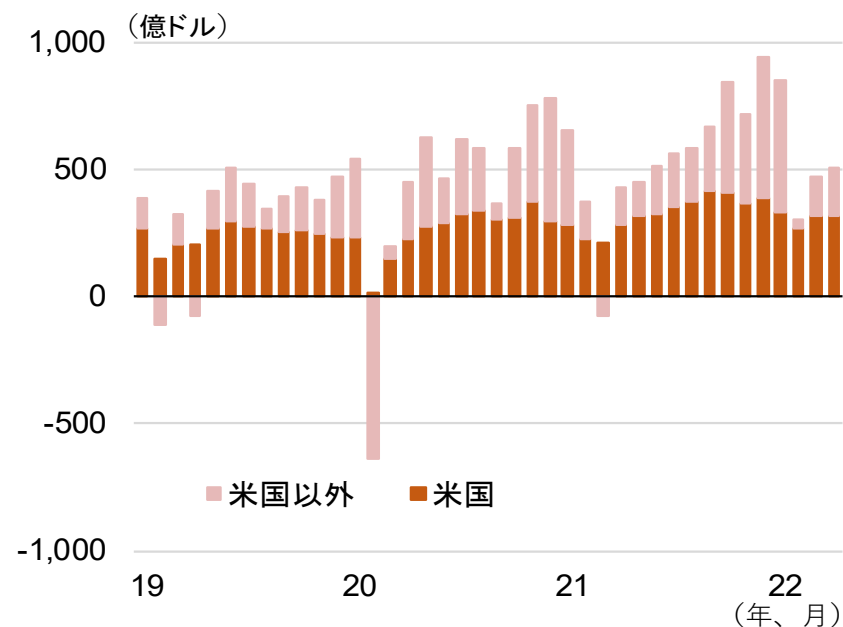
4月の輸出は前年比+3.9%と前月から増加幅が縮小し、輸入は前年と同水準だった。貿易黒字は511億ドルと、前年同月(429億ドル)から拡大した。輸出は、コンピュータ類、スマートフォンが減少に転じるなど、上海のロックダウンに伴うサプライチェーン混乱の影響がみられた。また輸入は、内需の弱さを反映したとみられ、地域別では、主に対EUの減少が大きかった。貿易収支は、対米国、対EUの黒字幅が大きく拡大した。

財輸出入



(出所) 海関総署

貿易収支



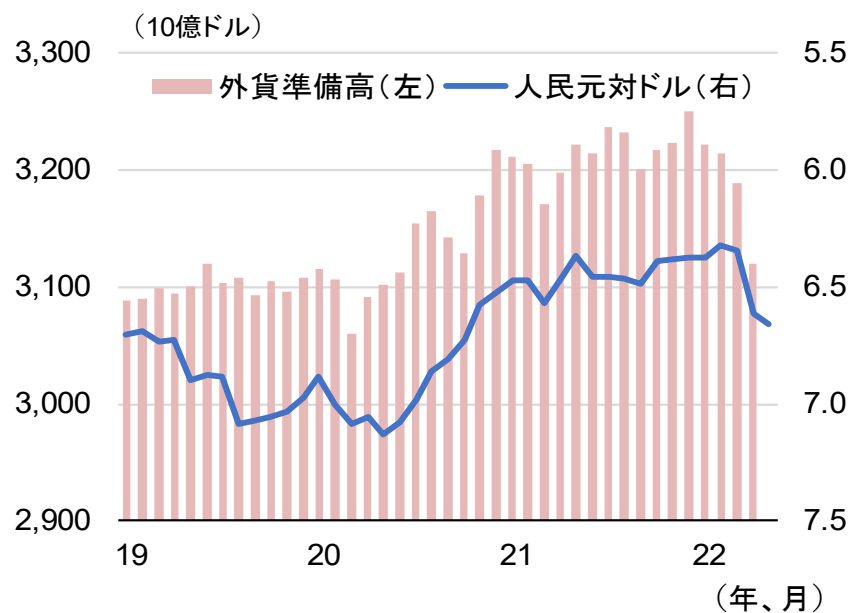
(出所) 海関総署

為替は元安、株価は持ち直し

人民元の対ドルレート(5月末値)は1ドル=6.66元と、米国との金利差拡大と中国景気の減速により、元安が進んだ。4月末時点での外貨準備高は、3兆1197億ドルと、ドル高で外貨建て資産のドル換算額が減少したことで、大幅に減少した。

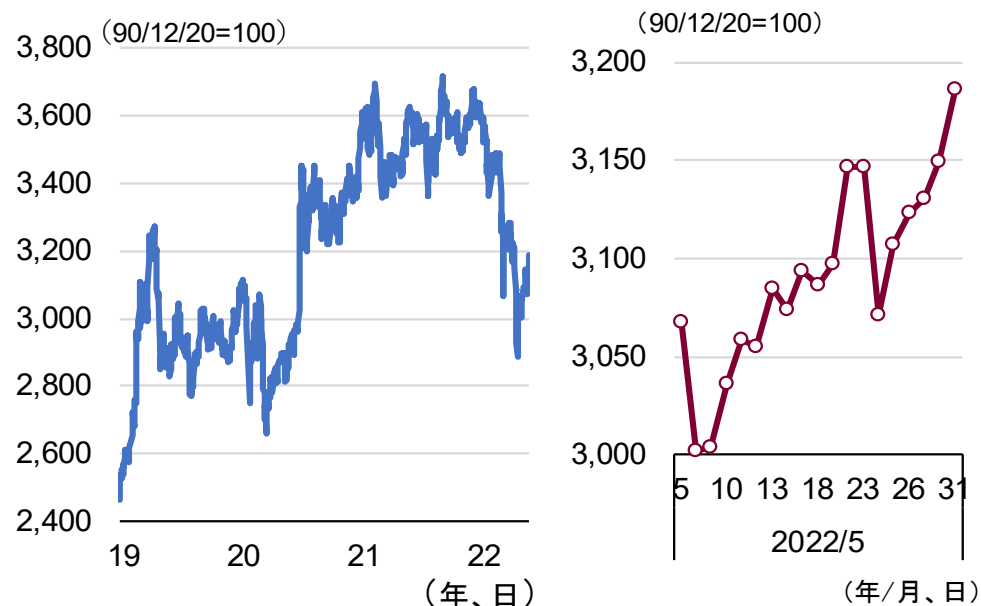
5月の上海総合株価指数は、6月から上海でのロックダウンが順次解除される方針が示されたことや、政府による景気下支え策への期待から、昨年末からの株安傾向にはいったん歯止めがかかった。

外貨準備高



(出所) 中国人民銀行

上海総合株価指数

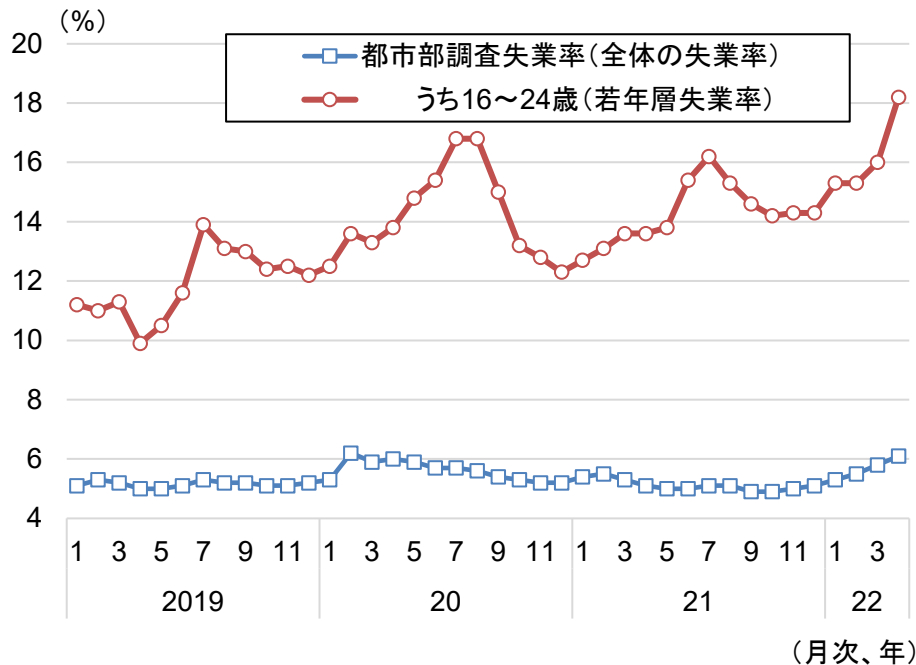


(出所) 上海証券交易所

若年層中心に雇用悪化

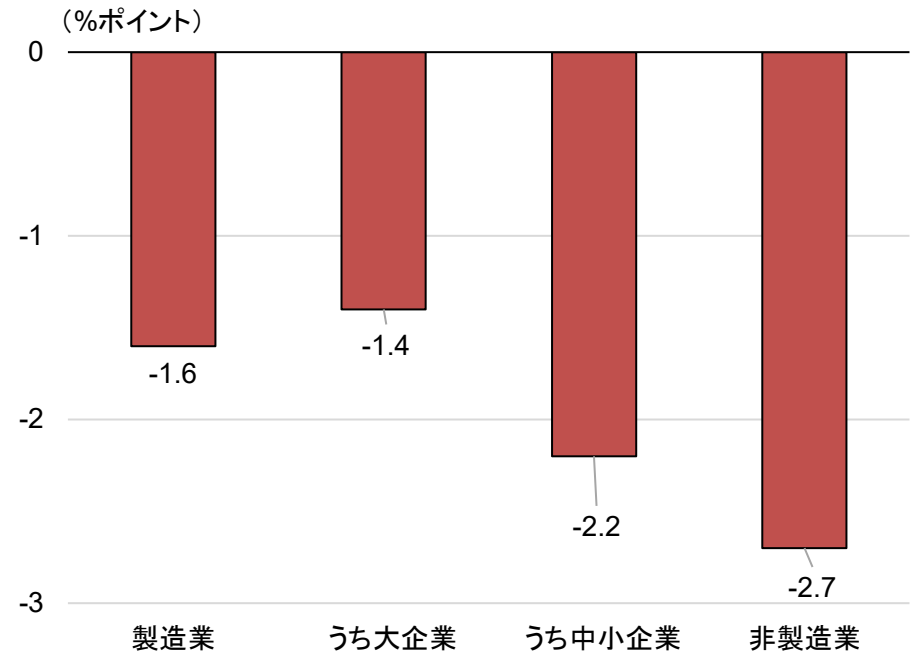
4月の失業率は6.1%と、武漢でロックダウン措置が採られた2020年2月(6.2%)以来の水準まで悪化した(左図)。PMI・就業人員指数の悪化幅は、中小企業製造業や非製造業で大きく、これらの企業で上海ロックダウンの影響が特に大きかったとみられる(右図)。年齢別では、16~24歳の若年層の失業率が18.2%(4月)と、統計のある2018年以降、最悪の水準となった。今後、感染抑制策の緩和に伴い、雇用情勢も改善する可能性がある。もともと、今年の大学新卒者は初めて1000万人を超えると見込まれ、労働供給の増加を背景に、若年層失業率は一段と上昇することが懸念される。

都市部調査失業率の推移



(出所) 国家統計局

PMI・就業人員指数の2月から5月にかけての変化幅

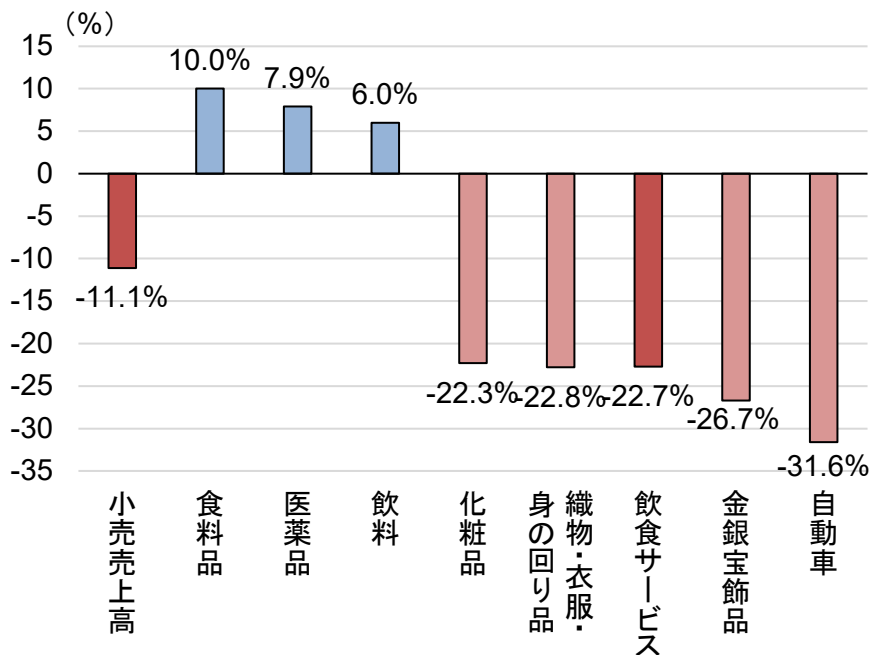


(出所) 国家統計局

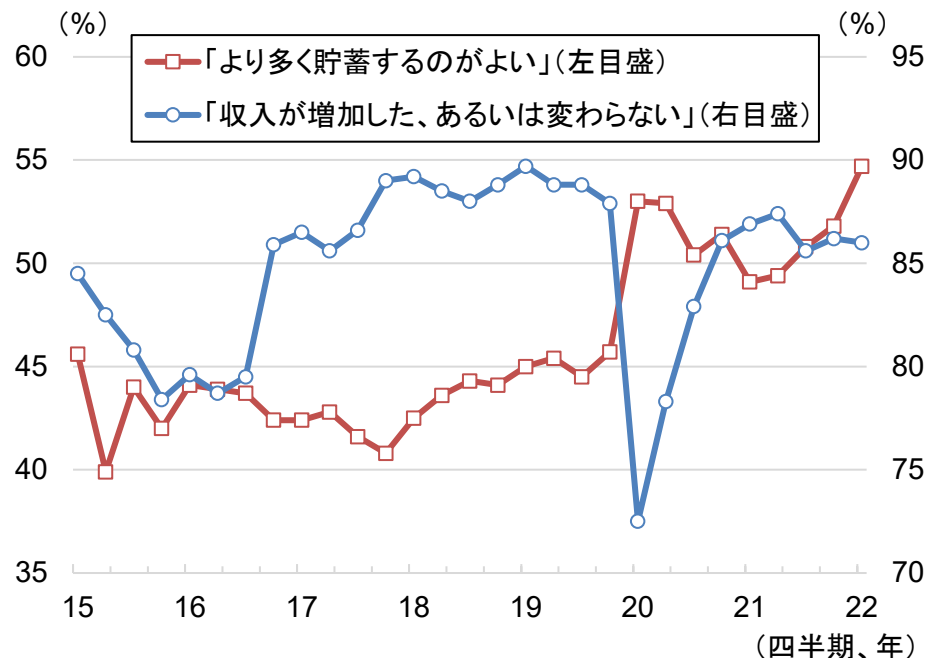
個人消費の落ち込みと、リベンジ消費への期待

上海でのロックダウンは、特に個人消費を大きく押し下げた。4月の小売売上高は前年比-11.1%と大幅に減少し、とりわけ化粧品や金銀宝飾品などぜいたく品の減少が大きかった(左図)。また、工場封鎖で生産が落ち込んだ自動車や、人との接触が不可避な飲食サービスも大幅に減少した。今後、ロックダウンの影響が剥落すれば、抑制されていた分のリベンジ消費が期待できる。ただし、雇用情勢が悪化し、先行き不透明感が高まる中、都市部の家計では所得が伸び悩み、貯蓄志向も高まっている(右図)。このため、リベンジ消費の景気押し上げ効果は限定的にとどまる懸念もある。

小売売上高の4月前年比



貯蓄・収入に関する質問への都市住民の回答割合



(注)「小売売上高」と「飲食サービス」以外は、売上高が一定以上の企業が対象
(出所) 国家統計局

(出所) 中国人民銀行

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 丸山 TEL:03-6733-1630 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください